

代数入門：演習問題 解答

演習問題 1

1. (1) 4. (2) 10. (3) 5.

2. (1) 15. (2) 19. (3) 22.

3. $a = 0.3.6, 9.$

4. $a = 0, 8.$

5. $1 + 2 + \cdots + 10 = \frac{10 \cdot 11}{2} = 5 \cdot 11 \equiv 0 \pmod{11}.$

6. (1) 5. (2) 0. (3) 4.

7. $1 + 2 + 3 + \cdots + (n-1) \equiv \begin{cases} 0 & (n \text{ が奇数のとき}) \\ \frac{n}{2} & (n \text{ が偶数のとき}) \end{cases} \pmod{n}.$

(証明) 公式より, $1 + 2 + 3 + \cdots + (n-1) = \frac{(n-1)n}{2}$. もし n が奇数ならば, $n-1$ は偶数なので $\frac{n-1}{2}$ は整数. よって, $\frac{(n-1)n}{2}$ は n の倍数である. もし n が偶数ならば, $\frac{n}{2}$ は整数. $\frac{n}{2} - \frac{(n-1)n}{2} = n - \frac{n^2}{2} = n \left(1 - \frac{n}{2}\right)$ は n の倍数だから, $\frac{n}{2} \equiv \frac{(n-1)n}{2} \pmod{n}.$

8. (1) 4. (2) 6. (3) 10.

9. p が素数のとき, $(p-1)! \equiv_p p-1$ である.

p が素数 $\iff (p-1)! \equiv p-1 \equiv -1 \pmod{p}$. は「ウィルソンの定理」と呼ばれるものである.

証明: 7章のフェルマーの小定理の章の始めに, p が素数ならば, $a \neq 0$ は必ず $a \times_p x = 1$ の解を持つことを示す: $x = a^{-1}$ とする. まず, $1^{-1} = 1, (p-1)^{-1} = p-1$ である. 後者は $(p-1) \times_p (p-1) = (-1) \times_p (-1) = 1$ より従う. 次に, $2 \times_p 3 \times_p 4 \times_p \cdots \times_p (p-2) = 1$ である. ゆえに, $(p-1)! \equiv_p p-1$ である. p が素数でないならば, $p = ab, 1 < a, b < p$ と分解できて $(p-1)!$ に $a \times_p b$ が出てくるので, $(p-1)! = 0$ である.

演習問題 2

1. (1) $45 = 18 \times 2 + 9$

$18 = 9 \times 2 + 0$ より, $(18, 45) = 9.$

$$\begin{aligned}
(2) \quad & 182 = 143 + 39 \\
& 143 = 39 \times 3 + 26 \\
& 39 = 26 + 13 \\
& 26 = 13 \times 2 + 0. \therefore (182, 143) = 13.
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
(3) \quad & 102 = 84 + 18 \\
& 84 = 18 \times 4 + 12 \\
& 18 = 12 + 6 \\
& 12 = 6 \times 2 + 0. \therefore (102, 84) = 6.
\end{aligned}$$

2. (1) $45 - 18 \times 2 = 9$ だから, $x = -2, y = 1$ は $18x + 45y = (18, 45)$ の 1 つの解である .

(2) $a = 182, b = 143$ とおく . $182 = 143 + 39$ より $39 = 182 - 143 = a - b$.
 $143 = 39 \times 3 + 26$ より $26 = 143 - 39 \times 3 = b - 3(a - b) = -3a + 4b$.
 $39 = 26 + 13$ より $13 = 39 - 26 = (a - b) - (-3a + 4b) = 4a - 5b$ なの
ので, $x = 4, y = -5$ は $182x + 143y = (182, 143) = 13$ の 1 つの解で
ある .

(3) $a = 102, b = 84$ とおく . $102 = 84 + 18$ より $18 = 102 - 84 = a - b$.
 $84 = 18 \times 4 + 12$ より $12 = 84 - 18 \times 4 = b - 4(a - b) = -4a + 5b$.
 $18 = 12 + 6$ より $6 = 18 - 12 = (a - b) - (-4a + 5b) = 5a - 6b$ なの
で, $x = 5, y = -6$ は $102x + 84y = (102, 84) = 6$ の 1 つの解である .

3. (1) 1, 5, 7, 10 (2) 2, 10, (3) 3, 9 (4) 4, 8 (6) 6

4. 省略 .

5. 省略 .

6.

$$67890 = 12345 \times 5 + 6165$$

$$12345 = 6165 \times 2 + 15$$

$$6165 = 15 \times 411 + 0$$

したがって, 互除法により, 求める最大公約数は 15 である .

$67890 = a, 12345 = b$ とおくと,

$$67890 = 12345 \times 5 + 6165 \rightarrow 6165 = a - 5b.$$

$$12345 = 6165 \times 2 + 15 \rightarrow 15 = b - 6165 \times 2 = b - 2(a - 5b) = -2a + 11b.$$

ゆえに, $x = 11, y = -2$ とおけば, これは $12345x + 67890y = 15$ の解
となっている .

演習問題 3

1. (1) 4 (2) 1, 3 (3) 2

2. (1) 2 (2) 2, 5 (3) なし

3.

a	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
a^{-1}	1	6	4	3	9	2	8	7	5	10

4. (1) 9 (2) 1 (3) 5

5.

a	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
a^{-1}	1	7	9	10	8	11	2	5	3	4	6	12

6. (1) 3 (2) 4 (3) 3

7. $ka = 0, (k+1)a = 0$ とすると, $ka = n\ell, (k+1)a = nt$ となる整数 ℓ, t がある. これより, $a = (k+1)a - ka = (t - \ell)n = 0$ である.

演習問題 4

1. 特殊解の取りかたは一意的でない. 他にもいくらでも別の特殊解の取りかたはあるので, それらも正解である.

(1)
$$\begin{cases} x = 2 + 5t \\ y = -1 - 3t \end{cases} \quad (t \text{ は任意の整数}).$$

(2)
$$\begin{cases} x = 4 + 5t \\ y = -1 - 2t \end{cases} \quad (t \text{ は任意の整数}).$$

(3)
$$\begin{cases} x = 4 - 5t \\ y = 1 - 2t \end{cases} \quad (t \text{ は任意の整数}).$$

2. (1) 一般解は
$$\begin{cases} x = 5 - 7t \\ y = 1 - 2t \end{cases} \quad (t \text{ は任意の整数})$$
 の形なので, $t = 0$ のとき, $1 \leq x \leq 10$ で, $(x, y) = (5, 1)$.

(2) 一般解は
$$\begin{cases} x = 2 - 3t \\ y = 4 - 7t \end{cases} \quad (t \text{ は任意の整数})$$
 の形なので, $t = -2, -1, 0$ のとき, $1 \leq x \leq 10$ で, $(x, y) = (2, 4), (5, 11), (8, 18)$.

(3) 一般解は
$$\begin{cases} x = 2 + 2t \\ y = -1 - 3t \end{cases} \quad (t \text{ は任意の整数})$$
 の形なので, $t = 0, 1, 2, 3, 4$ のとき, $1 \leq x \leq 10$ で, $(x, y) = (2, -1), (4, -4), (6, -7), (8, -10), (10, -13)$.

3. (1) 一般解は $\begin{cases} x = 4 + 2t \\ y = 4 - 3t \end{cases}$ (t は任意の整数) の形なので, $t = -1, 0, 1$ のとき, $x, y > 0$ で, $(x, y) = (2, 7), (4, 4), (6, 1)$.

(2) 一般解は $\begin{cases} x = 7 + 3t \\ y = -5t \end{cases}$ (t は任意の整数) の形なので, $t = -1, -2$ のとき, $x, y > 0$ で, $(x, y) = (4, 5), (1, 10)$.

(3) $7x + 4y = 1$ は解 $(x, y) = 3, y = -5$ を解に持つので. $7x + 4y = 40$ は $x = 120, -200$ を解に持つ.

一般解は $\begin{cases} x = 120 + 4t \\ y = -200 - 7t \end{cases}$ (t は任意の整数) の形なので, $t = -29$ のとき, $x, y > 0$ で, $(x, y) = (4, 3)$.

4. (1) 亀が 1 匹で鶴が 2 羽か, 亀が 3 匹で鶴が 1 羽.

(2) $8x + 10y = 72$ を解いて, $x = 4, y = 4$ なので, 両方とも 4 匹.

5. $2x + 4y = a$ が解を持ち, しかも $x, y > 0$ となる解は一意的ならば, $a = 6$ または $a = 8$ である.

6. $b = 5, 4, 3, 2, 1$ とそれぞれ見ていくと(ただし, $1 \leq a \leq b \leq 6$), $x + 5y = 6, x + 4y = 6, 2x + 4y = 6, x + 3y = 6, 3x + 3y = 6$ の 5 個.

演習問題 5

1. (1) $x = 3$. (2) $x = 4$. (3) $x = 4, 10$.

2. (1) 与式は, 移項して $3x \equiv 4 \pmod{7}$ と同じである. ゆえに, $x = 6$.

(2) 与式は, 移項して $6x \equiv -9 \equiv 6 \pmod{15}$ と同じである. $6x - 15y = 6$ を解くと, 特殊解として $x = 6, y = 2$ がある. 一般解は $(6, 15) = 3$ より,

$\begin{cases} x = 6 - 5t \\ y = 2 - 2t \end{cases}$ ($t \in \mathbf{Z}$) という形なので, $0 \leq x \leq 14$ の範囲の x は $x = 1, 6, 11$ で, これが求める解である.

(3) 与式は, 移項して $4x \equiv -2 \equiv 16 \pmod{18}$ と同じである. $4x - 18y = 16$ を解くと, 特殊解として $x = 4, y = 0$ がある. 一般解は $(4, 18) = 2$ より,

$\begin{cases} x = 4 - 9t \\ y = -2t \end{cases}$ ($t \in \mathbf{Z}$) という形なので, $0 \leq x \leq 17$ の範囲の x は $x = 4, 13$ で, これが求める解である.

3. $4x - 10y = a$ が解を持つ \iff 最大公約数 $(4, 10) = 2$ が a を割る. これより, $4x - 10y = a$ が解を持たないような a は $a = 1, 3, 5, 7, 9$ である.

4. もち金は109円. x 個買ったときの料金は $13x$ だが, 1円玉はすべて使うので, 合同式 $13x \equiv 4 \pmod{5}$ で $0 < 13x \leq 109$ の範囲で最大のものは $x = 8$. よって, 8個.

演習問題 6

- $12 = 5+7, 14 = 3+11(= 7+7), 16 = 3+13(= 5+11), 18 = 7+11, 20 = 7+13, 22 = 3+19, 24 = 5+19, 26 = 3+23, 28 = 5+23, 30 = 7+23$
- (1) 2 (2) 4 (3) 0 (4) 3
- $m = p^k a, n = p^t b$ で a, b は p で割れないとする: $v_p(m) = k, v_p(n) = t$ である. (1) $mn = p^{k+t} ab$ で ab は p で割れないので, $v_p(mn) = k+t = v_p(m) + v_p(n)$.
(2) $t \leq k$ とすると, $m+n = p^t(p^{k-t}a + b)$ なので, $v_p(m+n) \geq t = \min(v_p(m), v_p(n))$.

演習問題 7

- (1) 1. (2) 5. (3) 3.
- (1) $\sum_{k=0}^{32} ((3k+1)^2(3k+1)^2 + (3k+3)^2) \equiv \sum_{k=0}^{32} 2 = 2 \times 33 \equiv 0 \pmod{3}$.
(2) $\sum_{k=0}^{19} ((5k+1)^4 + (5k+1)^4 + (5k+3)^4 + (5k+4)^4 + (5k+5)^4) \equiv \sum_{k=0}^{19} 4 = 4 \times 20 \equiv 0 \pmod{5}$.
(3) $\sum_{k=0}^{14} ((7k+1)^6 + (7k+1)^6 + (7k+3)^6 + (7k+4)^6 + (7k+5)^6 + (7k+6)^6 + (7k+7)^6) \equiv \sum_{k=0}^{13} 6 = 6 \times 14 \equiv 0 \pmod{7}$.
- $1^{10} - 2^{10} + 3^{10} - 4^{10} + \dots + 99^{10} = \sum_{k=0}^8 \left(\sum_{i=1}^9 \{ (11k+i)^{10} - (11k+i+1)^{10} \} + (11k+11)^{10} \right)$.
ここで, $\sum_{i=1}^9 ((11k+i)^{10} - (11k+i+1)^{10}) + (11k+11)^{10} \equiv 0 \pmod{11}$
なので, 結局11で割り切れることが分かる.

4. $p = 11$ として, $10 = p - 1$ に注意すると, フェルマーの小定理より,
 $1^{p-1} - 2^{p-1} + 3^{p-1} - 4^{p-1} + 5^{p-1} - 6^{p-1} + 7^{p-1} - 8^{p-1} + 9^{p-1} - 10^{p-1} +$
 $11^{p-1} \equiv (1 - 1) + (1 - 1) + \cdots + (1 - 1) + 0 \equiv 0 \pmod{11}$ である.
5. $p = 7$ のとき, $a^5 = a^{-1}$ である. したがって, \mathbb{F}_7 において, $1^5 + 2^5 +$
 $3^5 + 4^5 + 5^5 + 6^5 + 7^5 = 1 + 4 + 5 + 2 + 3 + 6 + 0 = 0$ である.
6. n が奇数のとき, \mathbb{F}_7 において, $1^n + 2^n + 3^n + 4^n + 5^n + 6^n + 7^n =$
 $1^n + 2^n + 3^n + (-3)^n + (-2)^n + (-1)^n + 7^n = 1 + 2^n + 3^n - 3^n - 2^n - 1 + 0 = 0$
 である.
- n が偶数のとき, $1^n + 2^n + 3^n + 4^n + 5^n + 6^n + 7^n = 2(1 + 2^n + 3^n)$
 である. $n = 2, 4$ の場合のみこれが 0 になることを確認すればよい.
- $n = 2$ のとき, $2(1 + 4 + 9) = 28 = 0$ である. $n = 4$ のとき, $2(1 + 16 +$
 $81) = 2 \times 98 = 0$ である.

7. 略.

演習問題 8

1. (1) $x^2 + 1$. (2) $x^3 + 1$. (3) $x^5 + 1$.
2. $x^p + 1$.
3. (1) 商は $2x + 4$, 余りは $x + 1$.
 (2) 商は $4x^2 + 6x + 6$, 余りは 6.
 (3) 商は $x + 10$, 余りは 0.
4. (1) $(x + 2)(x + 1)$.
 (2) $(x + 1)(x + 4)$.
 (3) $(x + 3)(x + 4)$.

演習問題 9

1. (1) 2, 4. (2) 1, 5. (3) 2, 4, 6.
2. (1) $x^2 + 4 = x^2 - 9 = (x - 3)(x + 3)$ より, $x = 3, -3 = 3, 10$. (2)
 $8x^2 + 4x + 1 = 8(x^2 + 7x + 5) = 8(x - 1)(x - 5)$ より, $x = 1, 5$.
 (3) $x^4 - 1 = (x^2 - 1)(x^2 + 1) = (x - 1)(x + 1)(x - 8)(x + 8)$ より,
 $x = 1, -1, 8, -8 = 1, 12, 8, 5$.
3. フェルマの小定理より, $\forall x \in \mathbb{F}_p - \{0\} (x^{p-1} = 1)$ なので, \mathbb{F}_p の 0 で
 ない $p - 1$ この元は方程式 $x^{p-1} - 1 = 0$ の根である. あとは因数定理
 (定理 9.3) を繰り返し用いる.

4. 上で証明した等式 $x^{p-1} - 1 = (x-1)(x-2)\cdots(x-(p-1))$ に $x=0$ を代入すればよい.
5. F_{17} で $2^8 = 2^4 2^4 = (-1) \times (-1) = 1$ なので, $2, 2^2, 2^3, 2^4, 2^5, 2^6, 2^7, 2^8$ は $x^8 - 1 = 0$ の根である.

演習問題 10

1. (1) F_{11} の各元 $a \neq 0$ の位数は a^n を計算して行って初めて 1 となる n だが, 位数は $p-1 = 11-1 = 10$ の約数であることが分かっているので, 1 以外の元の位数は $n = 2, 5, 10$ のどれかである. フェルマの定理より, $a^{10} = 1$ は分かっているから, したがって, $a^2 \neq 1, a^5 \neq 1$ が確認できれば, a は原始根である.

$2^2 = 4 \neq 1, 2^5 = 4 \cdot 8 = 10 \neq 1$ なので, 2 は F_{11} の原始根である.

(2) F_{13}^* の各元 a の位数は a^n を計算して行って初めて 1 となる n だが, 位数は $p-1 = 13-1 = 12$ の約数であることが分かっているので, 1 以外の元の位数は $n = 2, 3, 4, 6, 12$ のどれかである. フェルマの定理より, $a^{12} = 1$ は分かっているから, したがって, $a^2 \neq 1, a^3 \neq 1, a^4 \neq 1, a^6 \neq 1$ が確認できれば, a は原始根である.

$2^2 = 4 \neq 1, 2^3 = 8 \neq 1, 2^4 = 3 \neq 1, 2^6 = 4 \cdot 3 = 12 \neq 1$ なので, 2 は F_{13} の原始根である.

(3) F_{17}^* の各元 a の位数は a^n を計算して行って初めて 1 となる n だが, 位数は $p-1 = 17-1 = 16$ の約数であることが分かっているので, 1 以外の元の位数は $n = 2, 4, 8, 16$ のどれかである. フェルマの定理より, $a^{16} = 1$ は分かっているから, したがって, $a^2 \neq 1, a^4 \neq 1, a^8 \neq 1$ が確認できれば, a は原始根である.

$3^2 = 9 \neq 1, 3^4 = 13 \neq 1, 3^8 = 16 \neq 1$ なので, 3 は F_{17} の原始根である
 $2^8 = 2^4 2^4 = (-1)^2$ なので, 2 の位数は 8 であり 16 でないので, 2 は F_{17} の原始根ではない.

2. (1) 2 は F_{11} の原始根なので, $\{1, 2, \dots, 10\} = \{2^0, 2^1, 2^2, \dots, 2^9\}$ であるから, $1+2+2^2+\dots+2^9 = 1+2+3+\dots+10 = \frac{10 \times 11}{2} = 5 \times 11 = 0$ である. これを利用するか, 次のようにやってもよい.

$1+2+2^2+2^3+\dots+2^{100} = \frac{2^{101}-1}{2-1} = 2^{101}-1 \equiv 2-1 = 1 \pmod{11}$ なので, 1.

(2) $1+2+2^2+2^3+\dots+2^{100} = \frac{2^{101}-1}{2-1} = 2^{101}-1 \equiv 2^5-1 = 5 \pmod{13}$ なので, 5.

$$(3) 1+3+3^2+3^3+\cdots+3^{100} = \sum_{k=0}^5 \{3^{16k} + 3^{16k+1} + 3^{16k+2} + \cdots + 3^{16k+15}\} + 3^{96} + 3^{97} + 3^{98} + 3^{99} + 3^{100} \equiv 6(1+2+3+\cdots+16) + 1+3+3^2+3^3+3^4 = 6 \frac{16 \cdot 17}{2} + \frac{3^5 - 1}{2} \equiv 0 + 2 = 2 \pmod{17} \text{ なので, } 2.$$

3. 略 .

4. 是非やってみてください . $\frac{2}{7}, \frac{3}{7}, \dots, \frac{6}{7}$ の少数展開の循環節も見てみましょう .

5. 略 .

演習問題 11

1. (1) $\text{mod } 11$ で 2 のべき乗 2^k を計算して, $2^2 = 4, 2^3 = 8, 2^4 = 5, 2^5 = 10, 2^6 = 9, 2^7 = 7, 2^8 = 3, 2^9 = 6, 2^{10} = 1$ より, $\text{ind}_2(a)$ が求まる .

また, 各元 a の位数は a^n を計算して行って初めて 1 となる n だが, 位数は $p-1 = 11-1 = 10$ の約数であることが分かっているので, 1 以外の元の位数は $n = 2, 5, 10$ のどれかである . $\text{mod } 11$ で計算して, $3^5 = 12 = 1$ より, 3 の位数は 5 である . $4^2 = 5, 4^3 = 9, 4^5 = 1$ なので, $\text{ord}(4) = 5$. $5^2 = 3, 5^3 = 4, 5^5 = 1$ なので, $\text{ord}(5) = 5$. $6^2 = 3, 6^3 = 7, 6^5 = 10$ なので, 6 の位数は 10 (つまり, 6 も \mathbb{F}_{11} の原始根) である . $7 = -4$ なので, $7^2 = 4^2 \neq 1, 7^5 = (-4)^5 = -1 \neq 1$ なので, 7 の位数は 10 (つまり, 7 も \mathbb{F}_{11} の原始根) である . $8 = -3$ より, $8^5 = (-3)^5 = -3^5 = -1$ なので, $\text{ord}(8) = 10$ (つまり, 8 も \mathbb{F}_{11} の原始根) . $9 = -2$ なので, 同様に, $8^5 = (-2)^5 = -2^5 = -(-1) = 1$ なので, $\text{ord}(9) = 5$. 最後に, $10 = -1$ より $10^2 = 1$ だから, $\text{ord}(10) = 2$.

a	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
$\text{ind}_2(a)$	10	1	8	2	4	9	7	3	6	5
$\text{ord}(a)$	1	10	5	5	5	10	10	10	5	2

(2) $\text{mod } 13$ で計算して行って, 次の結果を得る .

a	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
$\text{ind}_2(a)$	12	1	4	2	9	5	11	3	8	10	7	6
$\text{ord}(a)$	1	12	3	6	4	12	12	4	3	6	12	2

2. (1) \mathbb{F}_{11} の原始根として 2 をとり, $p-1 = 10 = 5 \cdot 2$ なので, $1, 2^2 = 4, 2^4 = 5, 2^6 = 9, 2^8 = 3$ が, つまり 3, 4, 5, 9 が $x^5 - 1 = 0$ の解である .

(2) \mathbb{F}_{13} の原始根として 2 をとり, $p-1 = 12 = 4 \cdot 3$ なので, $1, 2^3 = 8, 2^6 = 12, 2^9 = 5$ が, つまり 1, 5, 8, 12 が $x^4 - 1 = 0$ の解である .

(3) \mathbb{F}_{17} の原始根として 3 をとり, $p-1 = 16 = 8 \cdot 2$ なので, $3^2 = 9, 3^4 = 13, 3^6 = 15, 3^8 = 16, 3^{10} = 8, 3^{12} = 4, 3^{14} = 2, 3^{16} = 1$ が, つまり 1, 2, 4, 8, 9, 13, 15, 16 が $x^8 - 1 = 0$ の解である .

3. $1 \leq a \leq 12$ なる整数 a に対して, $a^{12} \equiv 1 \pmod{13}$ である (フェルマーの小定理). したがって, $a^{100} \equiv (a^{12})^8 a^4 \equiv a^4 \pmod{13}$ である. そこで, $a^4 \equiv 1 \text{ind}_2(5) \pmod{13}$ となる a を求めればよいが, それは, $x^4 - 1 = 0$ の解であるから, 上の問題の (2) より, $1, 5, 8, 12$ がそうである.

演習問題 12

F_p における方程式 $x^n = a$ の解法:

- F_p の原始根 r を一つ選ぶ (どれでもよい)
- $x^n = a$ より, 合同式 $\text{ind}_r(x^n) \equiv n \times \text{ind}_r(x) \equiv \text{ind}_r(a) \pmod{p-1}$ がなりたつ. $X = \text{ind}_r(x)$ とおく. $\text{ind}_r(a) = m$ を求める.
- 1次合同式 $n \times X \equiv m \pmod{p-1}$ を解く ($\text{mod } p$ ではない). 解の個数は $(n, p-1)$ 個である.
- 1次合同式 $nX \equiv m \pmod{p-1}$ の解を k_1, k_2, \dots, k_s とするとき, $x = r^{k_1}, r^{k_2}, \dots, r^{k_s}$ が方程式 $x^n = a$ の解である.

問 1. (1) F_{11} の原始根として 2 がとれる (練習問題 10 の 1 (1)). その他の F_{11} の原始根として 6, 7, 8 があるが, 2 が計算がラクそうである). $2^4 = 5$ なので, $\text{ind}_2(5) = 4$ である. したがって, $X = \text{ind}_2(x)$ とおいて, 1次合同式 $6X \equiv 4 \pmod{p-1 = 11-1 = 10}$ を解く. 解の個数は $(6, 10) = 2$ 個である. 解は不定方程式 $6X - 10Y = 4$ を解いて, $X = 4, 9$ である. ゆえに, 求める方程式の解は $x = 2^4, 2^9 (= 2^{-1}) = 5, 6$ である.

(2) F_{13} の原始根として 2 がとれる (練習問題 10 の 1 (2)). $2^4 = 16 = 3$ なので, $\text{ind}_2(3) = 4$ である. したがって, $X = \text{ind}_2(x)$ とおいて, 1次合同式 $8X \equiv 4 \pmod{p-1 = 13-1 = 12}$ を解く. 解の個数は $(8, 12) = 4$ 個である. 解は不定方程式 $8X - 12Y = 4$ を解いて, $X = 2, 5, 8, 11$ である. ゆえに, 求める方程式の解は $x = 2^2, 2^5, 2^8, 2^{11} (= 2^{-1}) = 4, 6, 9, 7$ である.

(3) F_{17} の原始根として 3 がとれる (練習問題 10 の 1 (3)). $3^3 = 10, 3^4 = 30 = 13$ なので, $\text{ind}_3(14) = 4$ である. したがって, $X = \text{ind}_3(x)$ とおいて, 1次合同式 $10X \equiv 4 \pmod{p-1 = 17-1 = 16}$ を解く. 解の個数は $(10, 16) = 2$ 個である. 解は不定方程式 $10X - 16Y = 4$ を解いて, $X = 2, 10$ である. ゆえに, 求める方程式の解は $x = 3^2, 3^{10} = 9, 8$ である. $3^8 = -1$ なので ($3^{16} = 1$ で 3 は原始根だから), $3^{10} = -9 = 8$ である.

問 2. (1) F_{11} の原始根として 2 がとれる. $2^8 = 3$ なので, $\text{ind}_2(3) = 8$ である. したがって, $X = \text{ind}_2(x)$ とおいて, 1次合同式 $2X \equiv 8 \pmod{p-1 =$

$11 - 1 = 10$ を解く. 解の個数は $(2, 10) = 2$ 個である. 解は不定方程式 $2X - 10Y = 8$ を解いて, $X = 4, 9$ である. ゆえに, 求める方程式の解は $x = 2^4, 2^9 (= 2^{-1}) = 5, 6$ である.

(2) \mathbb{F}_{11} の原始根として 2 がとれる. $2^7 = 7$ なので, $\text{ind}_2(7) = 7$ である. したがって, $X = \text{ind}_2(x)$ とおいて, 1 次合同式 $2X \equiv 7 \pmod{p-1 = 11-1 = 10}$ を解く. しかし, $(2, 10) = 2$ は 7 を割らないので, 不定方程式 $2X - 10Y = 7$ に解は無い.

(3) \mathbb{F}_{13} の原始根として 2 がとれる (練習問題 10 の 1 (2)). $2^{10} = 10$ なので, $\text{ind}_2(10) = 10$ である. したがって, $X = \text{ind}_2(x)$ とおいて, 1 次合同式 $2X \equiv 10 \pmod{p-1 = 13-1 = 12}$ を解く. 解の個数は $(2, 12) = 2$ 個である. 解は不定方程式 $2X - 12Y = 10$ を解いて, $X = 5, 11$ である. ゆえに, 求める方程式の解は $x = 2^5, 2^{11} (= 2^{-1}) = 6, 7$ である.

問 3. \mathbb{F}_{13} において方程式 $x^2 = -1 = 12$ は解をもつ. 実際, \mathbb{F}_{13} の原始根として 2 をとる. $2^6 = -1$ なので, $\text{ind}_2(-1) = 6$ である. したがって, $X = \text{ind}_2(x)$ とおいて, 1 次合同式 $2X \equiv 6 \pmod{p-1 = 13-1 = 12}$ を解く. 解の個数は $(2, 12) = 2$ 個である. 解は不定方程式 $2X - 12Y = 6$ を解いて, $X = 3, 9$ である. ゆえに, 求める方程式の解は $x = 2^3 = 8$ と, $2^9 = 2^6 2^3 = -1 \times 8 = 5$ である.

問 4. (1) $x^2 + 2x + 4 = (x+1)^2 + 3 = 0$ より, $(x+1)^2 = -3 = 4$ であるから, $x+1 = \pm 2 = 2, 5$. $\therefore x = 1, 4$.

(2) $x^2 + 4x + 2 = x^2 + 4x + 4 - 2 = (x+2)^2 - 2 = 0$ より, $(x+2)^2 = 2$. \mathbb{F}_7 において $3^2 = 2, 4^2 = 2$ なので, $x+2 = 3, 4$. $\therefore x = 1, 2$.

(3)
平方完成すると, $\left(x + \frac{9}{2}\right)^2 + 7 - \frac{81}{4} = 0$ である. \mathbb{F}_{11} において, $\frac{1}{2} = 6, 9 \times 6 = 54 = -1, \frac{1}{4} = 3, 81 = 4$ なので, 方程式は, $\left(x + \frac{9}{2}\right)^2 + 7 - \frac{81}{4} = 0$ は $(x-1)^2 = 5$ となる. \mathbb{F}_{11} において, $t^2 = 5$ を解くと, $t = 4, 7$ だから, $t = x-1$ のとき, $x-1 = 4, 7$ より, $x = 5, 8$ が求める解である.